

Malawi News



発行 2015年11月15日
発行人 長根尾 和子
石川県出身
青少年活動 マラウイ
2014年10月～
k_nagane@yahoo.co.jp

住所：Bakhita Primary School
P.O. Box 62, Balaka, Malawi



特集：



目次

1. 8か月間のダイジェスト

2. 特集:両親がマラウイに来る!

☆ちょっと休けい・・・人とのつながりに感謝!

3. 活動報告

JICAのHPに活動記事を書かせてもらいました。

中間報告終わりました!～1年目で得た教訓3つ～



大変ご無沙汰しておりました!みなさん、お元気ですか?マラウイ通信3号目を出してからいつの間にか8か月がたってしまいました。長根尾相変わらず元気でやっております!赴任して「何もかもが新鮮で楽しい!」の時期から一転、この8か月間は「耐えながら攻める」の時期だったような気がします。先日、JICA事務所で中間報告を無事に終えました。この1年を自分で振り返ることで、気持ち新たに2年目のスタートをきる事が出来ました。

1. 8か月間のダイジェスト

3月

31歳になりました!私の誕生日3月30日は、学校がちょうど春休みに入ったこともあり、マラウイーの大都市、フランチアで迎えました。人生2回目のサファリ!マジェテ国立公園に野生動物を見に行きました!



4月 モザンビークに行きました!

モザンビーク島ってどこ?

2015.4.3-4.10

☆モサン島の歴史☆

- 1498 ヴァスコダ・ガマ来島
- 1507 ポルトガル植民地支配開始
- 1586 天正少年遣欧使節団来島
- 1898 首都がマプトへ
- 1975 ポルトガルから独立
- 1991 世界文化遺産登録



モザンビーク



5月

一生に一回！坊主に挑戦！



親しくしてくれる大好きな先生たちと一緒に一枚！みんなで坊主～！



8月 千里先生はるぼる日本よりやってきたー！

千里先生との出会いは、14年前！私が高校生の時にロータリークラブの交換留学生としてオーストラリアに行っていた時。先生が、現地の高校で日本語教師のボランティアをしていたことが出会いのきっかけです。今でもつながっていることに感謝！次は、私が巡回しているマラウイの小学生と先生が担任するクラスの小学生を手紙でつなぐ予定です！



人との出会いは人生の財産と心から思います。



今夜のディナーとなる七面鳥です！



バーベキューにしておいしくいただきました！七面鳥さん、ごちそうさま～！
写真右から
千里先生、私、中野さん（元マラウイの協力隊員）、秋口隊員（25年度3次隊/数学教育）

みんなでBBQ！

10月 リズさんと7年ぶりの再会!

リズさんは学生時代に同じゼミで学んだ友達です。まさかマラウイで会うとは夢にも思っていませんでした!9月までイギリスに留学していたようで、ようやく会えました!3児の母となっても家族の理解を得て変わらず学び続ける姿が素敵だなと思いました。ここでも感じた人とのつながりの大切さです。



特集：両親マラウイに来る!

楽しみにしていた視察の旅!11月2日(月)~10日(火)の9日間、両親がはるばる日本からマラウイまで来てくれました。たくさんの方々食べ物、活動物資などを届けてもらい心から感謝です!本当にありがとうございました。大切にに使わせてもらいます!活動の様子をまた通信にて報告させていただきます。旅のダイジェストを親の「驚いた現地事情」「ソーツとした経験」「楽しかった経験」ベスト3にて振り返りたいと思います。楽しくて、あっという間に過ぎ去った9日間でした!



大量の日本食!
(やっぱり日本人でした!)

新米!

(マラウイのお米もおいしいですが
やっぱり能登のコシヒカリが一番!)

蚊のシュー

(必需品です!)

このシューの効き目は抜群です!

洗顔・シャンプー類

(これであと11か月大丈夫です!)

ありがとうございます!

アイスノンが必需品!

現在11月は一番暑く(夜で32度)
クーラーがないためこれで冷やしながら寝ます~!

貴重なバレーボール!マラウイの子どもたちは買い物袋を重ねてお手製のボールを作って遊んでいます。学校にはボールが1,2個しかありません。貴重なボールは棚にしまわれ、子供たちが自由に使える機会はありません。

雨季が終わったらバレーの普及を目的とした学校対抗バレーボール大会を企画しようと思っています!



驚いた!現地事情ベスト3

ミニバス(バン)に人を

つめ込みまくる!定員12人
くらいなのに19人乗せてた!



電気使用料はスマートメーター!

(フリペイド払いのこと)

日本より進んでる!?



日本車の多さにビックリ!

走行距離は50~60万キロ!



猫もしゃくしもみんな
携帯持ってる!!

バウラーと呼ばれる七輪が

マラウイでの熱源!



ゾーツとした経験ワースト3



ワースト1:突然のスクールですぐ濡れ!その後の水シャワー...さつむーい!

ワースト2:アフリカなのにさむーい!!22℃

ワースト3:出ました!サソリ!



ワースト1:ミニバスで100キロ! 死ぬかと思った

ワースト2:ぞうに威嚇されてゾーツとした。

ワースト3:ネズミの串刺し これ食べるのか!? (食べます...)



楽しかった経験ベスト3



子どもたちと一緒にかご作りをしたこと。
こどもたちの人懐こいこと!



サファリの見晴台から見えた星空。
流れ星がたくさん〜星多かつたなー!

子どもたちの前で
日本の国歌とカエルの歌を
歌ったこと。

へたくそだったけど楽しかった〜!

笑顔がいっぱい!
人懐こい!

永遠と続くティープランテーションでのアフタヌーンティー
シヤしてました〜!



自転車タクシー!
運転手が辛そうで気の毒
になってしまいました・・・

高速道路はすごいスピード!

スピード制限ってないの!?

ねぇ〜マラウイト!

そこんどこどうなっとるん?

炭、木、何でも
自転車で運ぶ...
ここでの運搬
手段は自転車
しかないのか!?



人とのつながりに感謝

ちょっと休けい

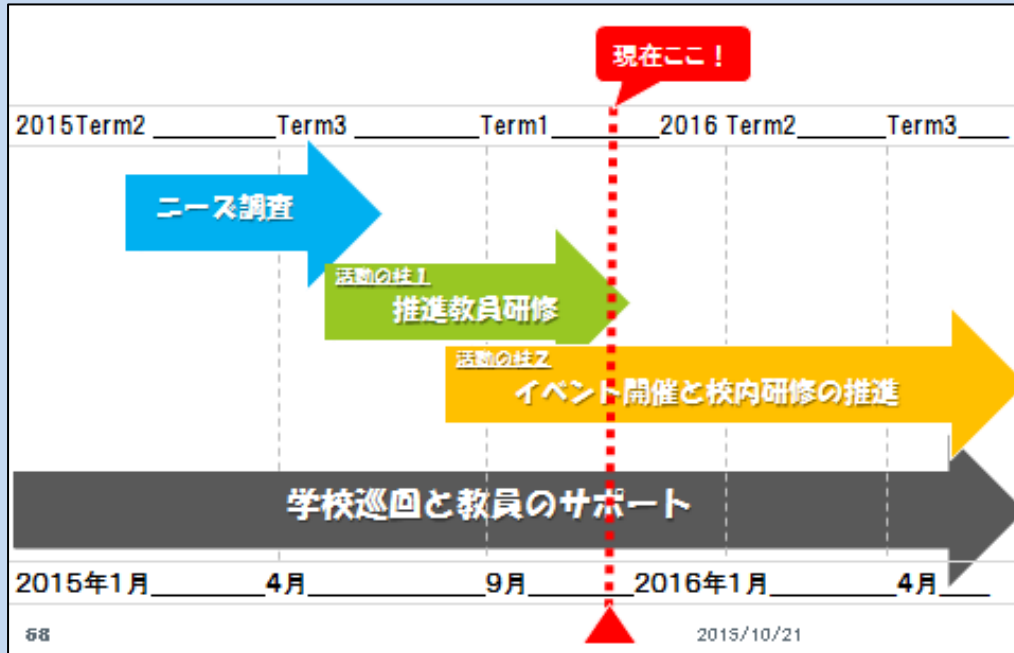
日本から遠く離れたマラウイ。それでもたくさんの人たちと色々な形でつながらせてもらっています。世界はきっと本当に狭いのだろうな、と感じます。みなさんに助けをもらい、支えてもらっているおかげで、マラウイの地でもこうして私は自分らしく根を下ろして活動することができているのだと強く実感する日々です。マラウイに来る前には、「自分の経験を活かしてマラウイの子どもたちに自分ができるところを！」そう意気込んでいました。今でもそう思っています。でも、実際に来てみて実感することは、「結局いつも助けられているのは私なんだ…。自分1人では何にも出来ないのだな…。」ということ。そして、これらの学びから常に心に留めるようになったことは、「自分が人から親切にもらったこと、嬉しかったことを、次は自分が目の前にいる人に必ず返していこう、返していける人になろう。」ということでした。

自分が気づいていなかっただけで、人は常に誰かから助けられているし、おこがましいかもしれないけれど、自分も時々助ける番になっているのかな(?)と思いました。それが「人とつながる」ということなんだと実感しています。この学びを忘れることなく日々の生活を送ろうと思います。



3. 活動報告

2年間の活動計画とその流れ



ニーズ調査

- ・現状把握
- ・課題のある単元の把握
- ・推進教員の選定

推進教員研修

- ・各学校でエクスペリシブアーツを推進する核となる教員の育成

イベント開催 校内研修

- ・推進教員が中心となり校内のエクスペリシブアーツ担当教員に研修での学びを深め、教科の活性化を図る

JICAのHPに活動記事を載せてもらいました。



独立行政法人 国際協力機構

文字サイズ [標準](#) [大きく](#) | [English](#) | [Français](#) | [Español](#)

[サイトマップ](#) | [よくある質問](#) | [お問合せ](#) Loading

[国際協力に参加したい方](#) | [NGOの方](#) | [研究者の方](#) | [メディアの方](#) | [企業の方\(民間連携\)](#) | [投資家の方](#)

[サイト活用ガイド](#)

[ホーム](#)

[JICAについて](#)

[事業・プロジェクト](#)

[各国における取り組み](#)

[ニュース](#)

[国際協力・ODAについて](#)

ホーム > JICAについて > 国内・海外のJICA拠点 > 海外のJICA拠点 > アフリカ > マラウイ事務所 > トピックス&イベント情報 > ボランティアレポート「不可能を可能に！ - 100人規模のクラスで先生たちとより良い授業を模索する日々 -」

ページを共有する



JICAについて

組織情報

[JICAのビジョン](#)

[事業展開の方向性](#)

[理事長あいさつ・活動内容](#)

[組織概要](#)

[国内・海外のJICA拠点](#)

[本部](#)

[国内のJICA拠点](#)

[海外のJICA拠点](#)

[アジア](#)

[大洋州](#)

[北米・中南米](#)

[アフリカ](#)

[中東](#)

[欧州](#)

[情報公開](#)

[年次報告書](#)

[環境への取り組み](#)

各種情報

[調達情報](#)

[投資家情報](#)

[採用情報](#)

[募集・研修](#)

[誌・パンフレット](#)

[映像\(ムービー\)](#)

[JICAオフィシャルサポーター](#)

● ボランティアレポート「不可能を可能に！ - 100人規模のクラスで先生たちとより良い授業を模索する日々 -」

2015年7月13日

名前：長根尾 和子
隊次：平成26年度2次隊
職種：青少年活動
配属先：バラカ教師研修センター
出身地：石川県

「国が違っても授業の上手な先生はテンポが良く、100人規模のクラスを上手にコントロールしている！」それが授業を参観させてもらって最初の印象でした。赴任して最初の5か月間は毎日地区内の巡回校に通いました。マラウイの教育現場を「知ること」「学ぶこと」から始めようと心に留めていたからです。その中で気になったのは、私の担当教科であるエクスプレッティブーツ(注)が「教材不足」と教員の「知識不足」により、頻繁に他の教科にすり替わっている、授業が行われていてもそれは往々にして説明のみの授業に留まっていることでした。

先生方の授業を参観させてもらう中で意識始めたことは、「お互いの優れている点を活かした授業の質向上のあり方を模索していきたい」ということです。自分自身も日本の教育現場を経験してもらい、数多くの研修を通して指導主事の先生や先輩教員からたくさんのノウハウを教えてもらいました。この経験は私にとっての財産です。「国が違っても、授業の質改善に向けた取り組みという点では共通している。あるべき授業が児童に届くよう、解決策を推進教員の先生たちと一緒に考え、他の先生たちに提案していけるような研修プログラムが企画できたら」と構想が具体化してきました。赴任後8か月目、計11回の半年間に及ぶ推進教員研修プログラムを提案し、カウンターパート(以下CP)とともに5月よりプログラムをスタートさせました。

巡回校の中で最も敬遠されている単元が衣装作りです。「教員のスキル不足」と「教材不足」がその原因です。まずはスキルを身につけるべく、裁縫のプロ職人であるタマラさんを講師として招請し、服の作り方を教員に指導してもらいました。その後、学校現場で衣装作りの授業を実践してもらいました。「教材不足」の問題については、授業実施者と校長と相談の結果、各児童から20クワチャ(約5円)を集金し、材料の購入資金に充てることで解決しました。授業で垣間見られた児童の積極的な授業態度と完成したときの笑顔は最高でした。

教育現場の課題は尽きません。100人越えのクラスも教材不足もすぐには改善されないでしょう。でも、ここには的確なアドバイスを与えてくれる心強いCPと協力してくれる先生たちがいます。彼らとともに、周りから「不可能」として諦められていることに挑戦し、あるべき授業を児童に届けられるよう模索し続けたいと思います。

(注) 音楽・体育・ダンス・図工・裁縫・ドラマの要素を含む1つの確立した教科である。



タマラさんによる服作りの研修中



研修で学んだことを模擬授業中

中間報告が終わりました!10/21

赴任して1年が経過するとJICA事務所にて中間報告を行います。活動報告に加えて赴任してから活動をする中で学んだ3つの教訓を紹介したいと思います。この学びを心に留めながら2年目も頑張ります!

その1:視点の転換



パッと見...猫

良く見ると...ネズミ

2015/10/21

何が見えますか?・・・「パッと見は猫」というのは、赴任したときに感じた「誰も私が担当する技能教科を実施していない。」「実施されていたとしても実技がない。」という現状です。「よく見るとネズミ」というのは、巡回を繰り返す中で見えてきた、ほんの一握りだけど「頑張っている人」「いいものを持っている人」はいるという視点です。

この経験から、**視点を転換させることの大切さ**を学びました。つまり、**やっていない大多数の人やことに目を向けて落胆するのではなく、少数のしっかりやっている人やそのことに目を向けることの大切さ**を学びました。

その2:耐えながら継続すること



少数のしっかりやっている人やそのことに目を向けられたとしても、日々の成長とは目には見えないものです。特に6月から9月は歯がゆい思いをし、「**今やっていることに意味はあるのだろうか。」「これでいいのだろうか。」**と何度も不安になりました。そして、絵にあるような胃を痛めている人のような思いをしていた気がします。でも、**それでも辞めなかったからこそ見えてきたかすかな変化。」「今日は体育をやる。」**と先生から言ってきくれたことなど、**小さなことだけど、耐えながらも辞めるのではなく継続することの難しさ、と同時にその大切さを学びました。**

その3:この1年で100回以上考えたこと

- *人はお金がないと動かないのか、お金がなくても動くことはあるのか?
- *ボランティアにできることって何だ?

- ☑その人の心に灯がともれば動く!
- ☑お金がない中でそれを共有できる存在に気づく。感謝する。



マラウイではたくさんの援助団体が入っています。彼ら主催の研修に参加すれば先生たちは手当てがもらえます。教員の月給は56000クワチャ(約11000円)です。辛いのは、多くの教員にとって研修に参加する目的が、指導力向上よりも、お金をもらうこととなっていることです。もちろん私はボランティアなのでお金など出せません。そして左記の疑問が私の頭の中を何度もリピートしました。

1年を通してたどり着いた答えは、「その人の心に灯がともれば動く」ということ。つまり、先生が「おもしろそう、やってみようかな、」と興味を持てばお金はなくても自発的に動くようになるのだということ。そして、ボランティアにできることは、**お金がない中でそれを共有できることに感謝しながら、一緒にアクションを起こしていくことだ**という答えに至りました。

次回予告: バラカ市内対抗

合唱コンクールの開催!